



見えないけれど、
あなたのそばに

2023年2月

2022年11月期

個人投資家向け決算説明会資料

東証 プライム：4187



“特殊アクリル酸エステル”のリーディングカンパニー

大阪有機化学工業株式会社

◆ 当社のご紹介

◆ 2022年11月期 決算概要

◆ 2023年11月期 業績予想

◆ 中期経営計画

◆ トピックス

◆ 参考資料

会社概要

創立	1941 年12月8日
設立	1946 年12月21日
本社	大阪府中央区安土町一丁目8番15号
資本金	36億29万円
従業員数	454名(連結)
上場市場	東証プライム (証券コード：4187)

経営理念

わたしたちは、一人ひとりの個性を大切に、ユニークな機能を備えた材料を提供することにより、お客様と共に社会の発展に貢献します

経営ビジョン

特殊アクリル酸エステルのリーディングカンパニーとして、グローバル市場に価値を提供する

行動指針

- ・わたしたちは、約束を守り、誠実に謙虚に向き合います
- ・わたしたちは、お互いの良さを活かし、補い合い、チームで最大限の力を発揮します
- ・わたしたちは、お客様のイノベーションに繋がるユニークな機能を備えた材料を提供し続けます
- ・わたしたちは、安全を最優先し、無事故・無災害を目指します



見えないけれど、あなたのそばに

- : 事業所
- : 工場
- : グループ
- : 研究所



光碩（上海）
化工貿易有限公司

神港有機化学工業(株)



金沢工場 金沢研究所

酒田工場

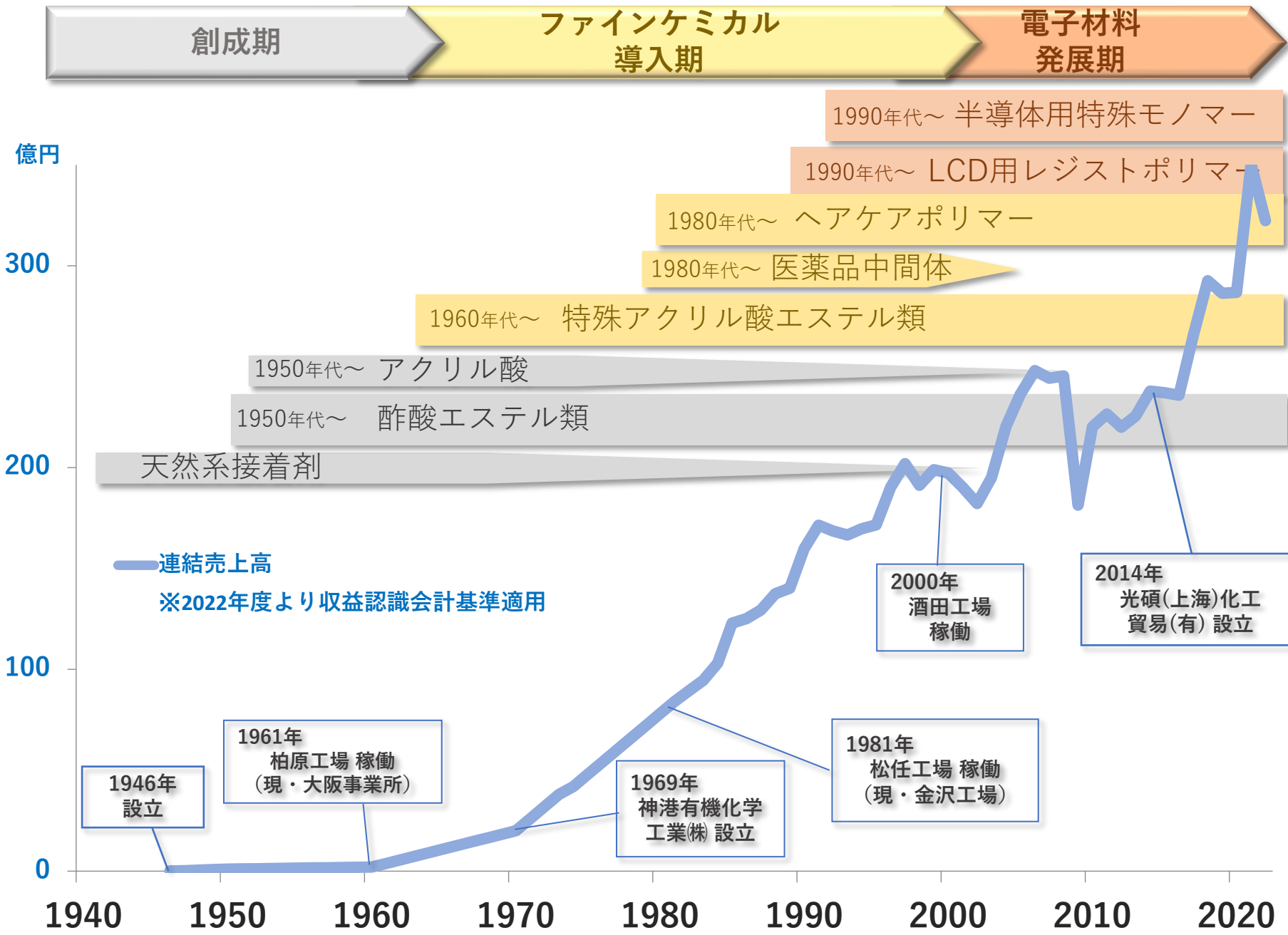


本社

東京オフィス

大阪事業所

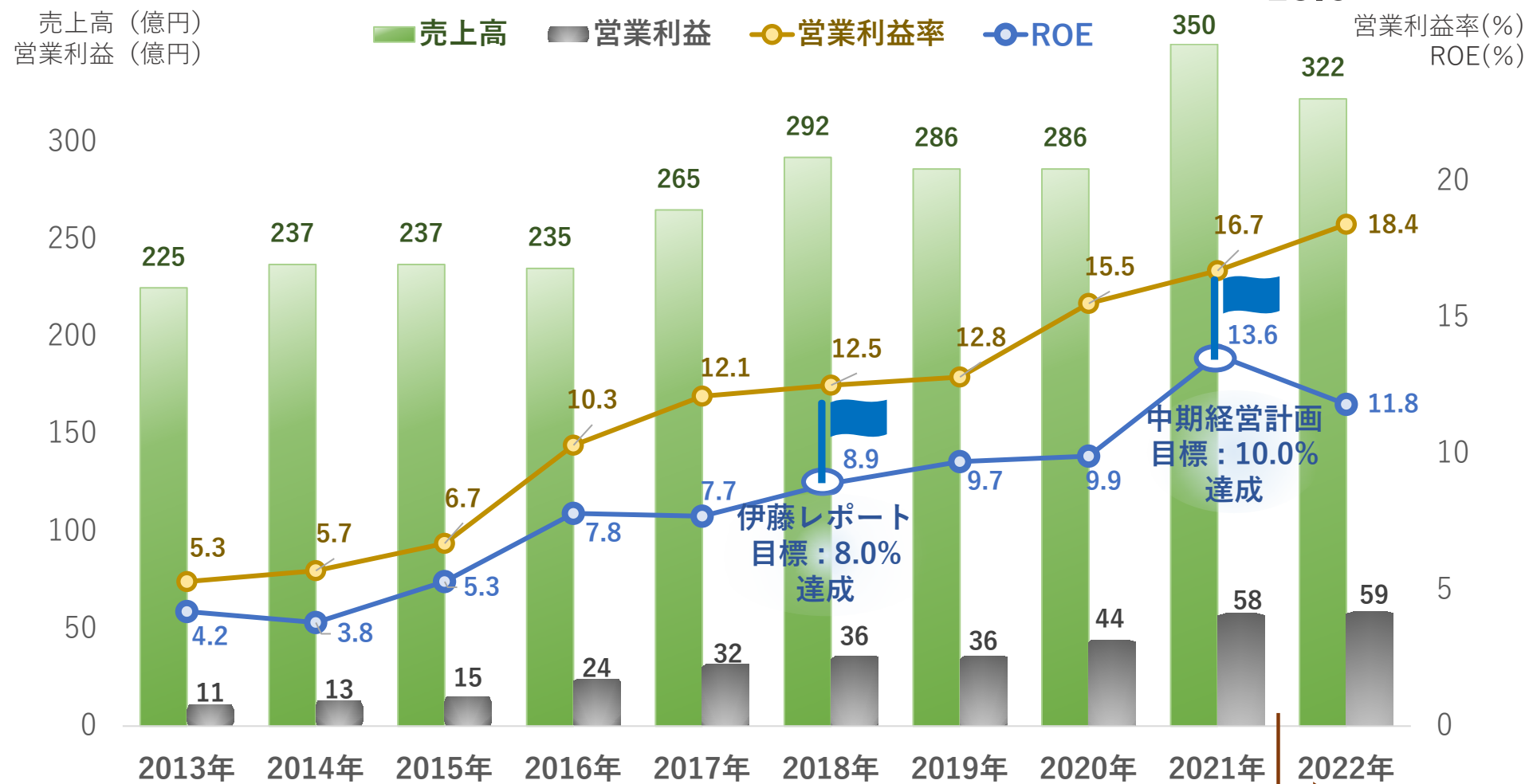
CREO(研究所)



長期業績推移

収益認識基準の変更により2022年度の売上高・ROEは減少しましたが、
営業利益は増益を維持しております。
また、ROEに関しては伊藤レポート目標(8.0%)、中期経営計画目標(10.0%)
ともに早期に達成しております。

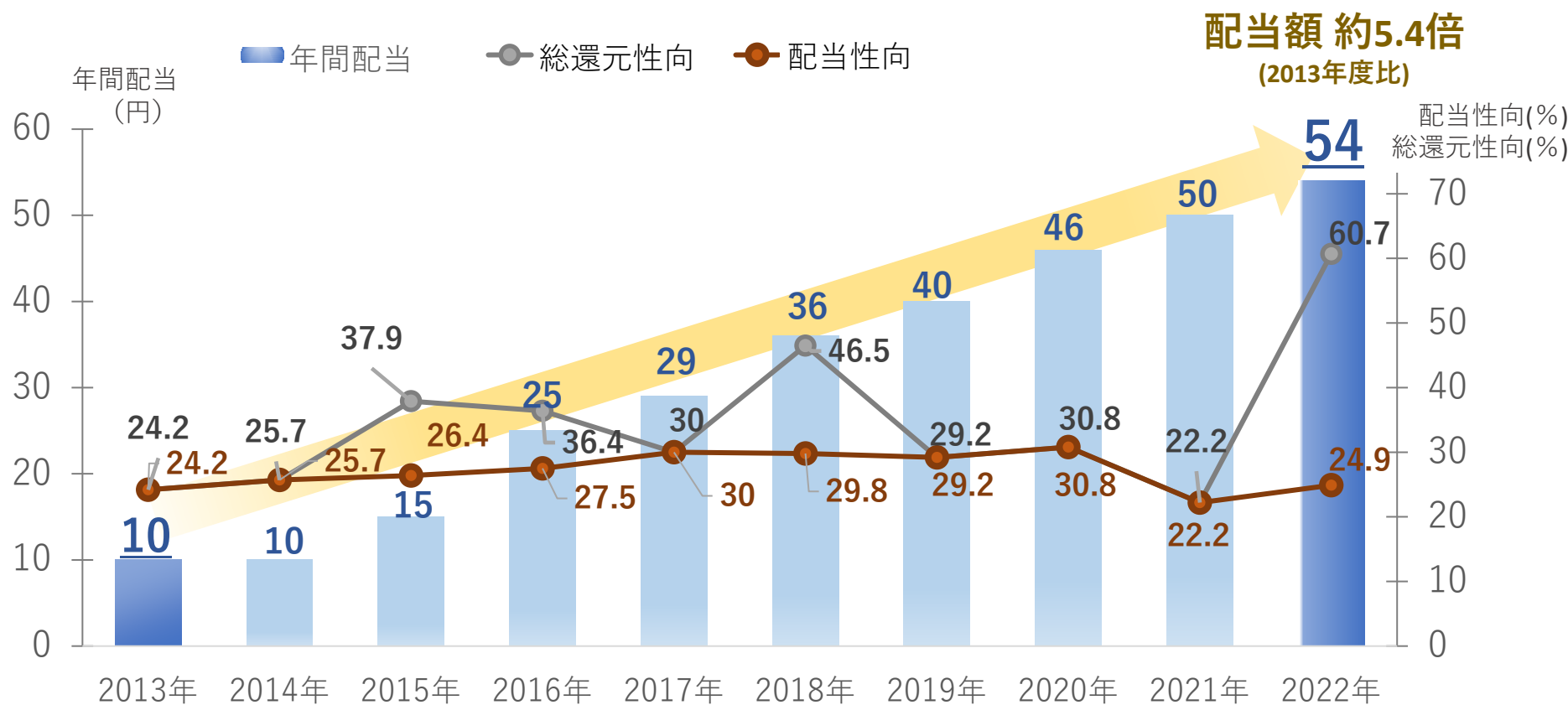
2013-22年
営業利益
CAGR
19.6 %



※2022年11月期より「収益認識に関する会計基準」等を適用しています。

株主還元推移

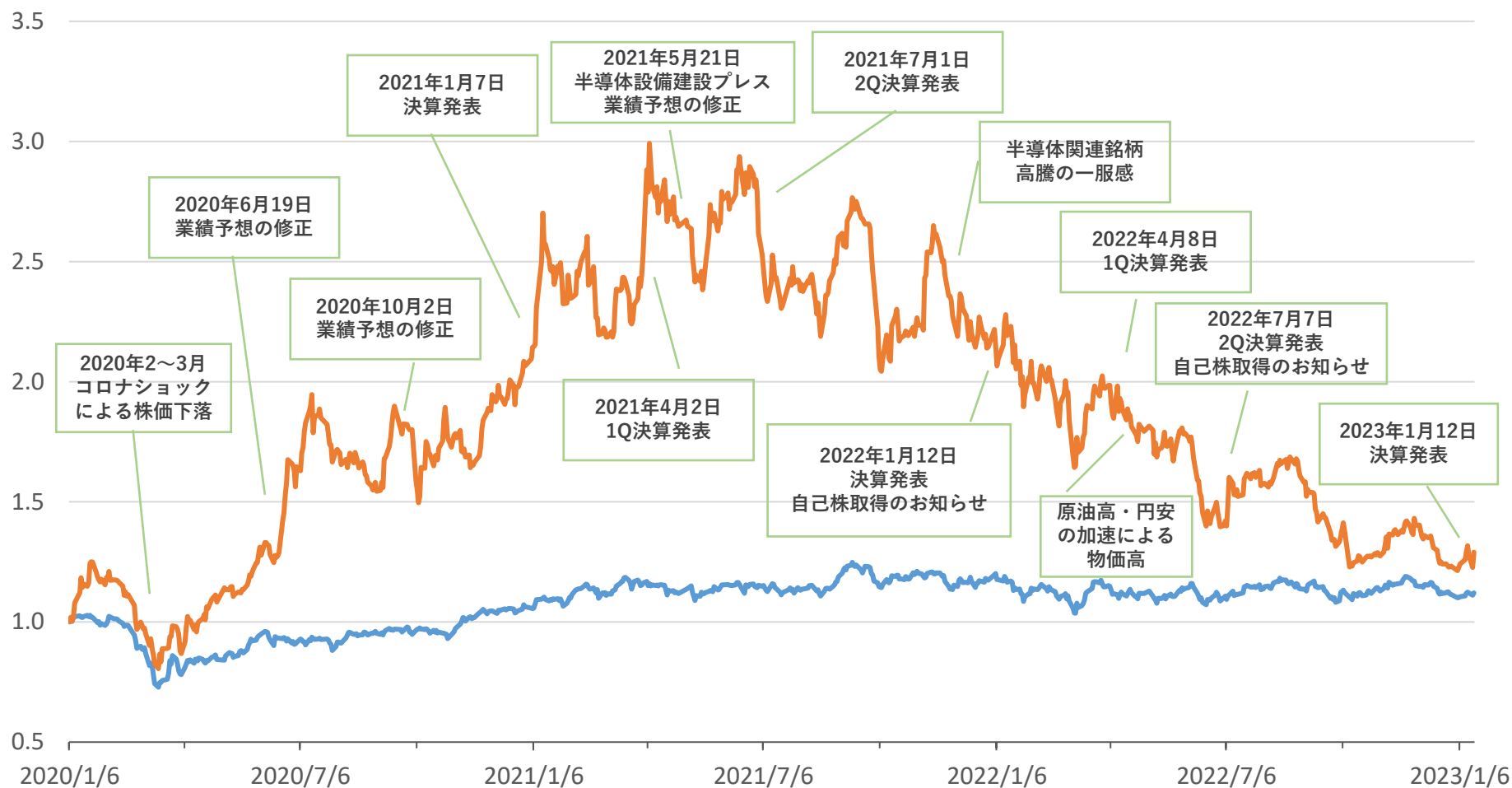
年間配当は過去8年間で増加しつづけ、配当額は**約5倍**となっております。(2013年度比)



会計年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
1株当たり当期純利益(EPS,円)	41	39	57	91	97	121	137	150	226	217
年間配当 (円)	10	10	15	25	29	36	40	46	50	54
配当性向 (%)	24.2	25.7	26.4	27.5	30	29.8	29.2	30.8	22.2	24.9
総還元性向 (%)	24.2	25.7	37.9	36.4	30	46.5	29.2	30.8	22.2	60.7

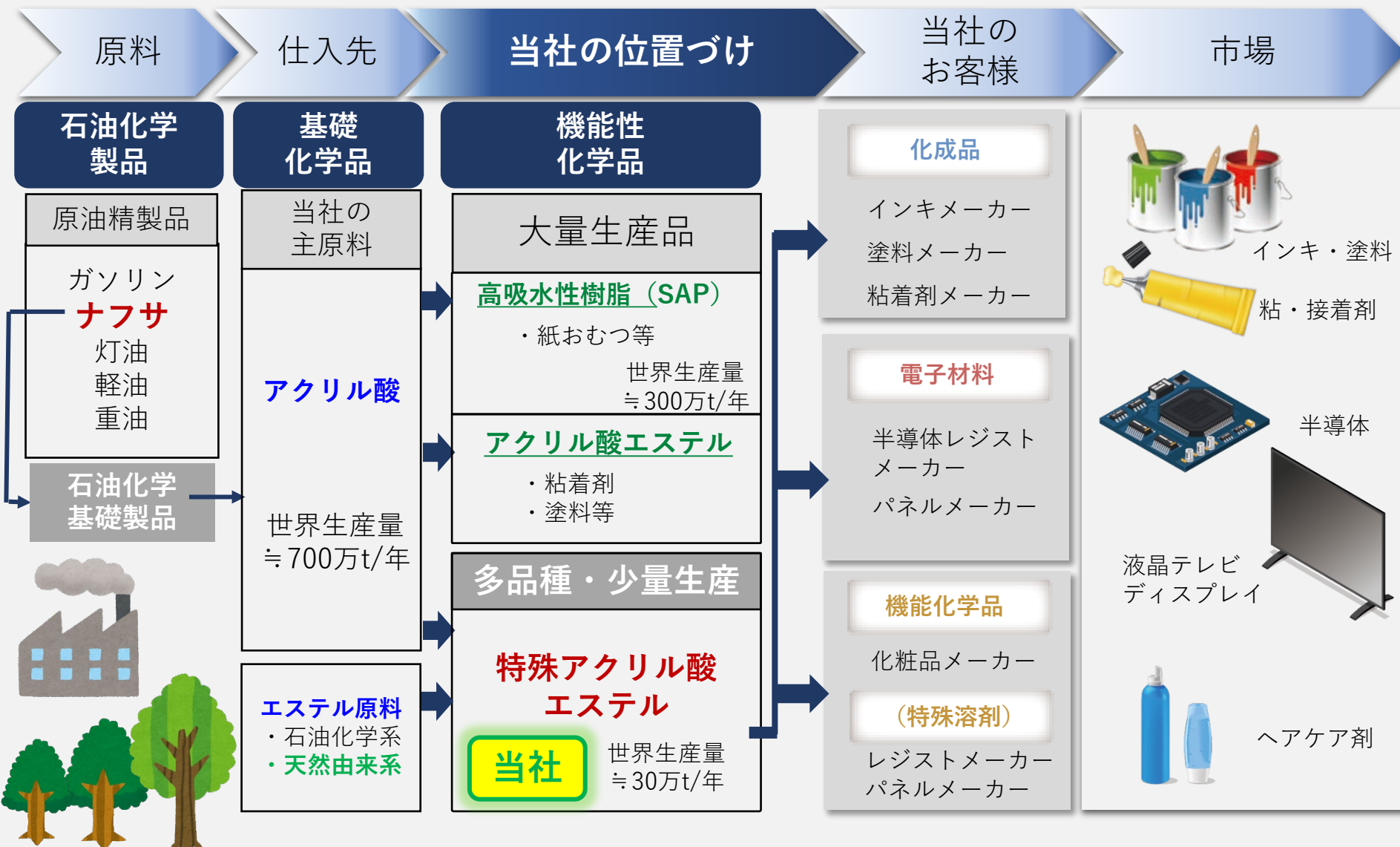
- 2020年の年初株価を1とした場合、当社株価は、TOPIXの変動に比べて高い増加率で推移していましたが、直近では同水準で推移しております。

— TOPIX — 当社の株価

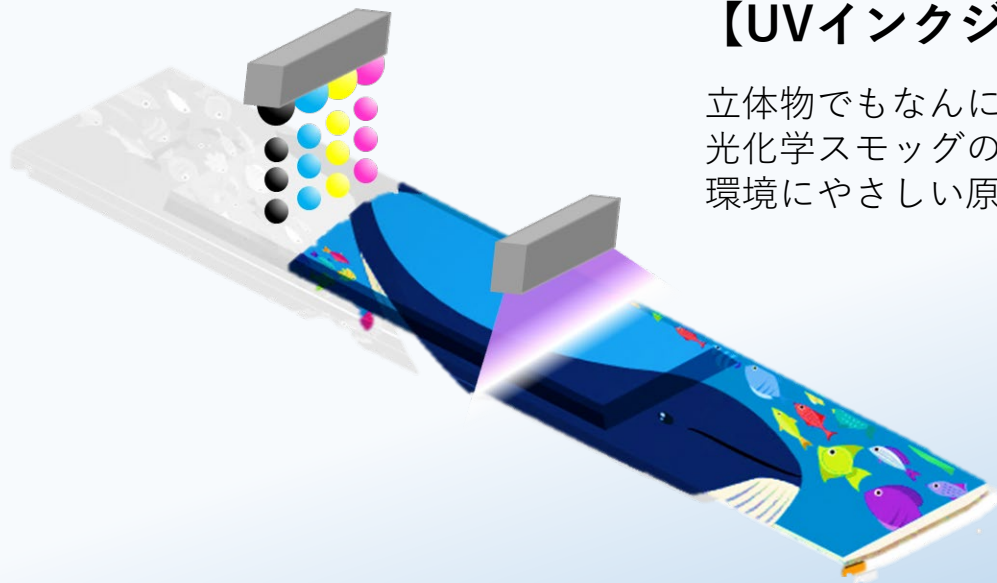


当社事業の位置づけ

* 特殊アクリル酸エステルの**多品種少量生産**を得意とする B to B メーカー。
多彩な製品群を有し、世界でトップシェアの品目を何種類も保有しています。



化成品



【UVインクジェット用原料】

立体物でもなんにでも印刷可能なUVインクジェットプリント。
光化学スモッグの原因であるVOC（有機溶剤）の蒸発が少なく、
環境にやさしい原料を提供しています。

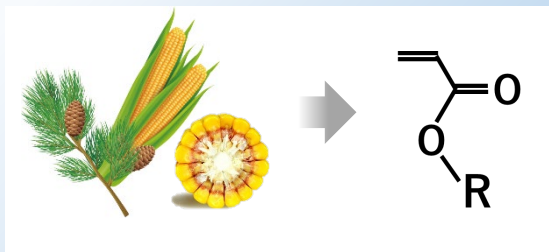
【自動車塗料用原料】

環境にやさしく、汚れをはねのけ、小さなキズを自動修復する原料を提供しています。



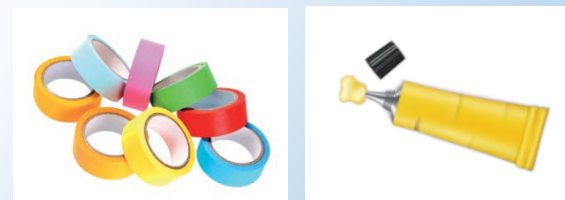
【バイオマスアクリレート】

松やトウモロコシの芯など、天然由来原料を使用したバイオマスアクリレートを開発し、SDGsに貢献しています。



【粘接着剤用原料】

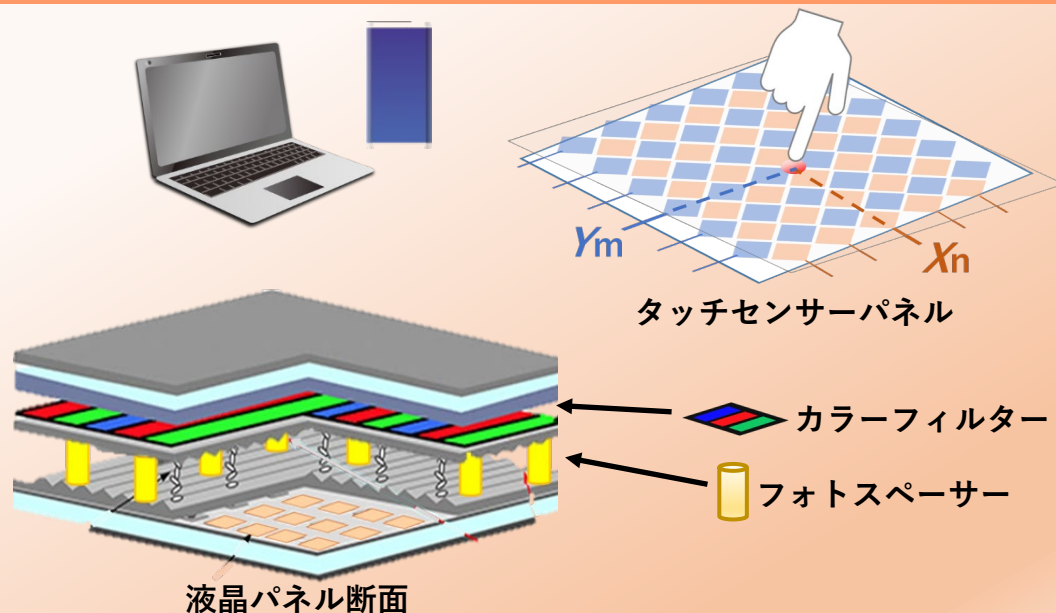
種々の用途を持つ粘接着剤原料を提供しています。靱性や伸び、屈折率のコントロールなど様々な機能を付与することができます。



電子材料

【表示材料用原料】

テレビ・スマートフォン・パソコンなどに欠かせないフラットパネルディスプレイ。当社独自のアクリルモノマーや高分子の設計技術を生かし、液晶の表示に欠かせないフォトスペーサーをはじめ、カラーフィルターやタッチセンサーパネルといったディスプレイの高機能化に役立つ材料を提供しています。



【半導体用原料】

最先端半導体の集積回路を作るのに欠かせないフォトレジスト。当社はArFフォトレジスト原料のトップシェアを占めています。さらに最先端のEUV材料も提供しています。半導体の進化は様々な形で省エネやCO2削減に貢献しており、当社の製品もそのお手伝いをしています。



機能化学品事業

【化粧品原料】

髪を固めたり、ボリュームを持たせたりするヘアスプレーやヘアジェル。当社のアクリル樹脂がヘアケア材料の機能アップに貢献しています。

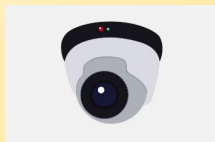


また、においが少なく、保湿・抗菌効果があり、防腐剤（パラベン）を含まない原料を提供しています。こちらは、フェイスパックなどに使われています。



【超親水性コーティング材料】

当社の超親水性コーティング材料をガラスに塗布すると、曇らず、汚れにくくなります。この性質を生かし、眼鏡や浴室の鏡の曇り止め、監視カメラの表面保護に使われています。



【特殊溶剤】

グループ会社の神港有機化学では、様々な溶剤を提供しています。近年では不純物を極限までカットした超高純度の特殊溶剤が、電子材料用途としてお役にたっています。

新規事業

【エラストマー関連材料】

当社の技術を駆使して、高伸張・高柔軟性を有する「伸縮性導電材料」を展開しています。用途は、生体センサや、ストレッチャブルデバイス、感圧センサ、スマートテキスタイル等です。



【有機圧電材料】

さらに、圧電性を付与した「有機圧電材料」を開発し展開しています。用途は、触覚デバイス、ソフトアクチュエータ等です。



【その他】

金属や強化プラスチック等、様々な素材を接着する異種接着剤、透明と遮光が切り替わる窓に使用される調光材料など、当社のコア技術を生かした開発品を提供しています。

- ◆ 当社のご紹介
- ◆ **2022年11月期 決算概要**
- ◆ 2023年11月期 業績予想
- ◆ 中期経営計画
- ◆ トピックス
- ◆ 参考資料

外部状況

新型コロナウイルス感染症再拡大等の影響を受けながらも、経済活動の制限から抜け出しつつあり、景気は緩やかな回復基調となりました。一方で、原材料価格の高騰や急激な為替相場の変動、長期化するウクライナ情勢等、先行き不透明な状況となっています。

売上高

各セグメントの売上高は堅調に推移し、特に半導体材料は引き続き堅調を維持しており、売り上げを牽引しました。なお「収益認識に関する会計基準」の適用により今期の売上高は、322億3千6百万円となりました。
(旧基準で前年同期比+7.0%)

営業利益

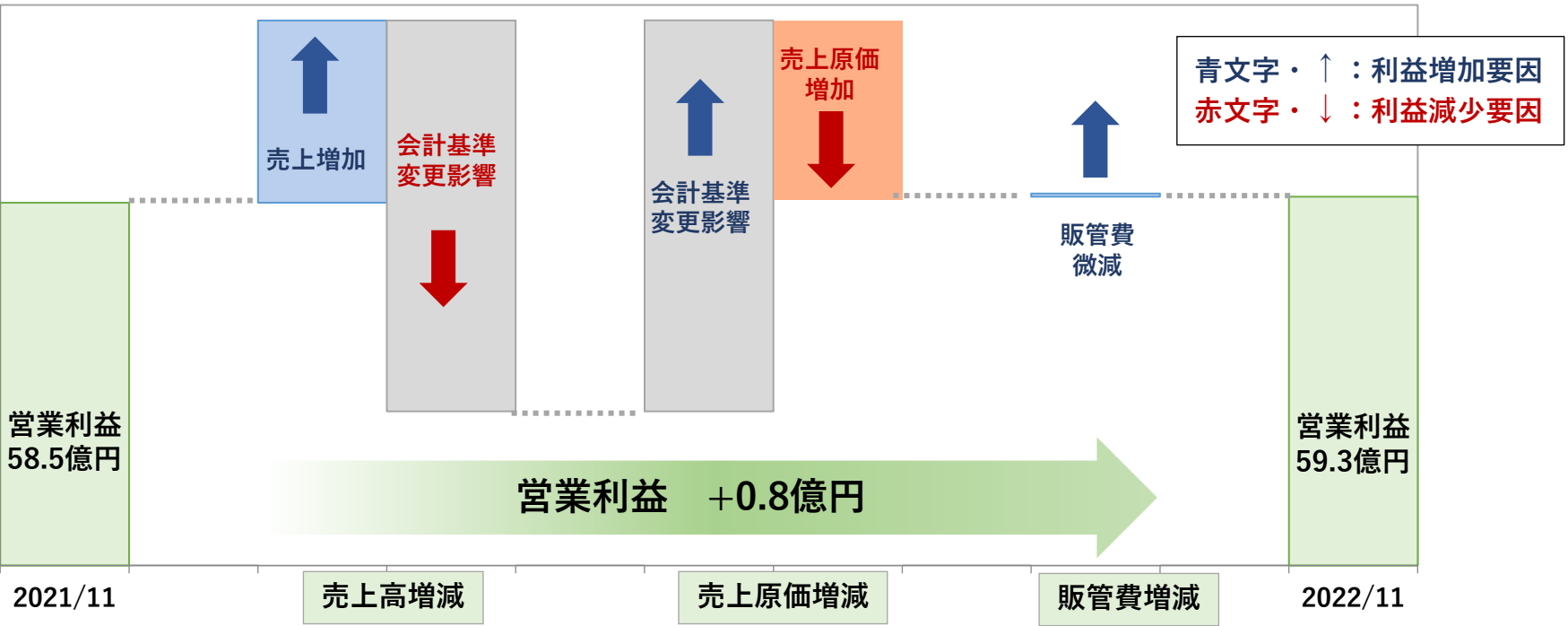
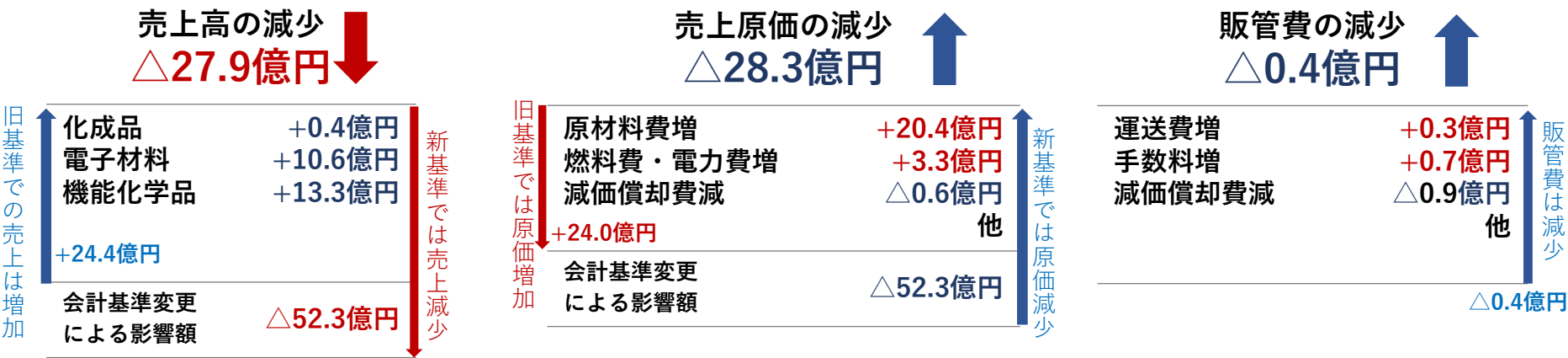
原料の値上がりや燃料・電気代の上昇はあったものの、半導体材料が堅調に推移した事により営業利益は59億3千4百万円となりました。
(旧基準で前年同期比+1.4%)
(百万円)

	2021/11 実績	2022/11 予想	2022/11 実績	前年同期比	
				増減額	増減率
売上高	35,027	33,000 ※37,888	32,236 ※37,467	— ※+2,439	— ※+7.0%
営業利益	5,852	5,900	5,934 ※5,933	— ※+80	— ※+1.4%
経常利益	6,253	6,150	6,365 ※6,363	— ※+110	— ※+1.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,998	4,200	4,725 ※4,724	— ※△274	— ※△5.5%
国内ナフサ (¥/KL)	50,750	54,000	77,025	—	—
為替 (¥/\$)	109	110	129	—	—

→ 新会計基準

2022年11月期より「収益認識に関する会計基準」等を適用しています。
※は、旧基準で算出した参考値となります。

原材料費・燃料費・電力費などの高騰がマイナス要因となりましたが、売上高は堅調に推移し、営業利益は前年同期に対し、0.8億円の増加となりました。



主なリスク要因の影響について

■リスク要因の影響度

ナフサ・原料費高騰	2022年の国産ナフサ価格は、 1Q：64,600円/KL、2Q：86,100円/KL、3Q：81,400円/KL、4Q：76,000円/KL で推移しました。化成品はナフサに連動した価格修正を実施中。
燃料・電気代値上がり	燃料・電気代上昇の影響額は前期比で+3.3億円となりました。 運賃・その他経費もあわせて、価格是正を交渉中。
円安	売上げへの直接的な影響は軽微でした。 輸入原料の価格が上昇しているため価格是正を交渉中。
ロシア・ウクライナ侵攻	今のところ大きな影響は見られておりません。 一部原料でアロケーションを受けておりますが、生産に問題はありませんでした。
上海ロックダウン	影響は受けましたが、期を通してみれば大きな影響には至りませんでした。 子会社の光碩(上海)化工貿易における売上高は前年比 113.1% となりました。

■ 化成品

自動車用塗料向けの販売が低調に推移し、ディスプレイ用粘着剤向けの販売も減少に転じる中、UVインクジェット用インク向けの販売は堅調に推移いたしました。原燃料高騰による価格修正を実施しましたが利益は**低下**しました。

■ 電子材料

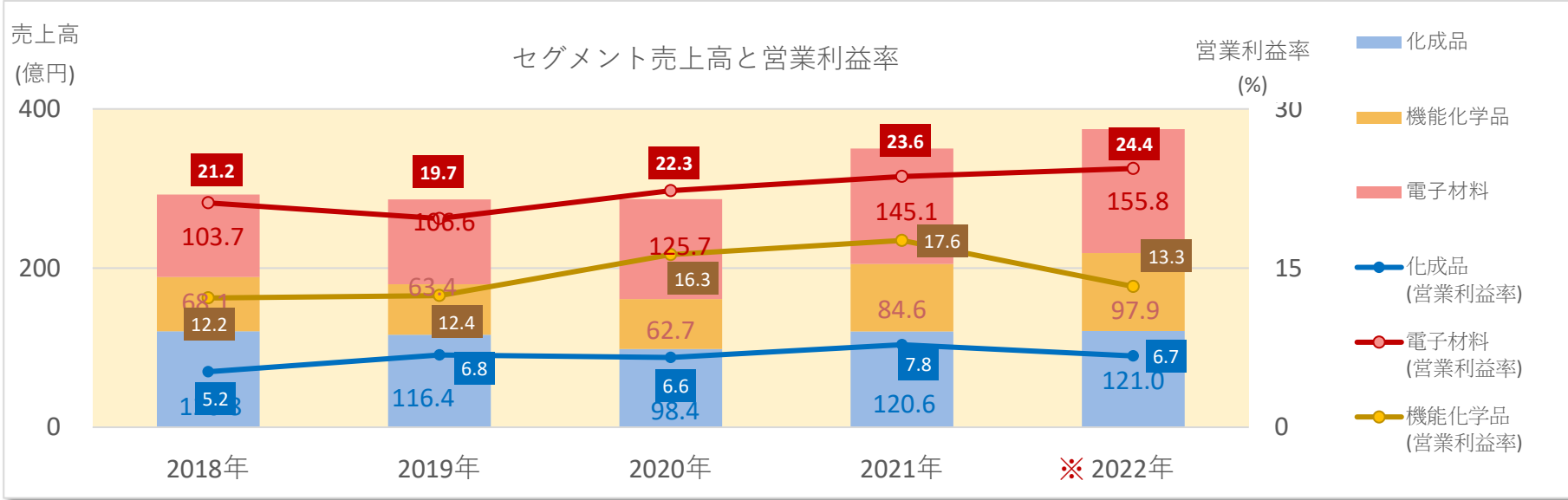
表示材料はディスプレイの需要の反動減により販売は低調に推移いたしました。半導体材料の需要は引き続き旺盛に推移した事により**増益**となりました。

■ 機能化学品

化粧品原料や特殊溶剤の需要が好調に推移いたしました。原燃料価格・償却費などの製造コスト増加により利益は**低下**しました。

	化成品	電子材料	機能化学品
売上高	110.39 ※120.99 (YoY : +0.3%)	152.20 ※155.75 (YoY : +7.4%)	59.76 ※97.92 (YoY : +15.7%)
営業利益	8.13 ※8.13 (YoY : △13.3%)	38.00 ※37.98 (YoY : +10.7%)	12.99 ※12.99 (YoY : △12.8%)

※：旧基準で算出した参考値

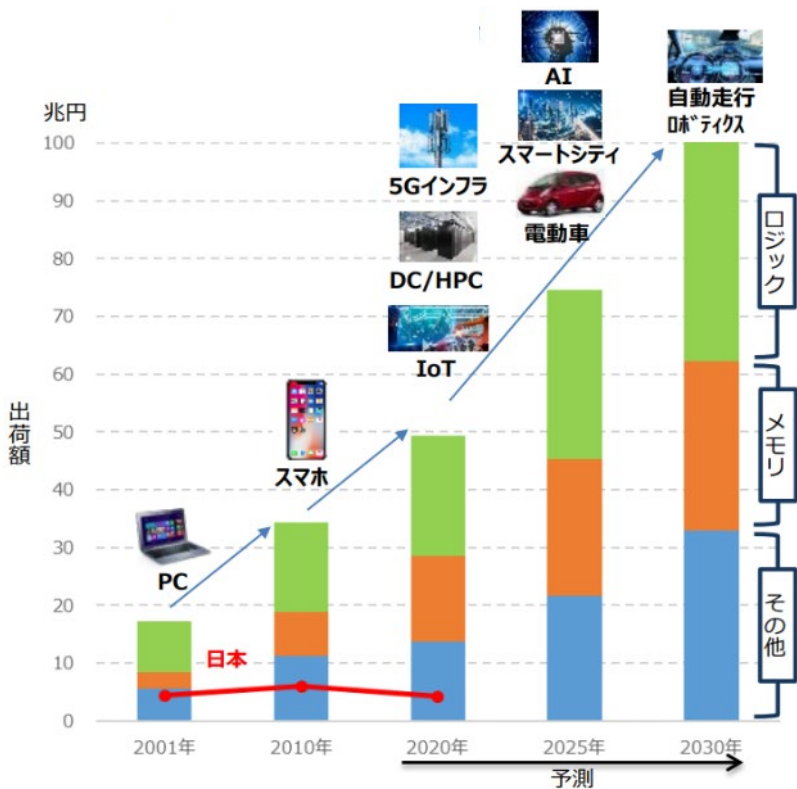


* グラフは比較のため旧基準値を使用

高まり続ける半導体材料へのニーズに応える為、設備投資を積極的に実施しております。

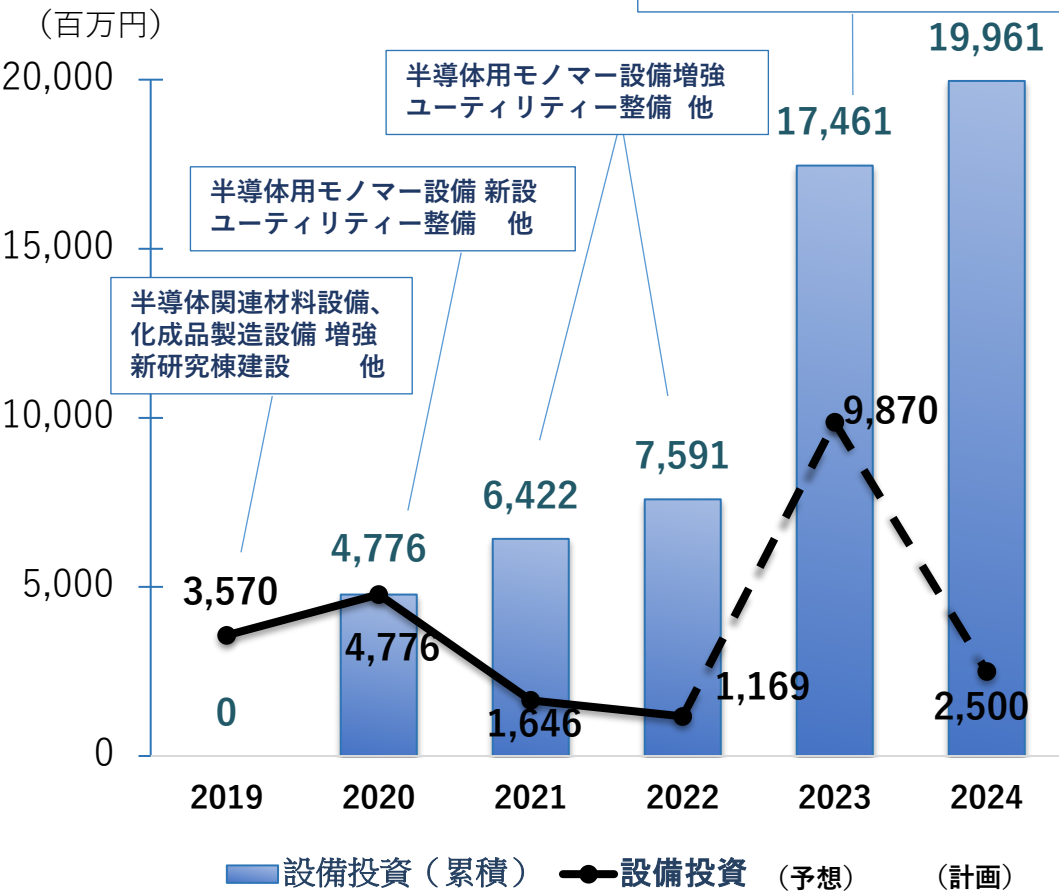
中期経営計画にて、**2020年～2024年度の累計で約200億円**の設備投資を計画し、実行中です。

【世界の半導体市場】



経済産業省
半導体・デジタル産業戦略検討会議資料より

【大阪有機化学 設備投資額】



- ◆ 当社のご紹介
- ◆ 2022年11月期 決算概要
- ◆ **2023年11月期 業績予想**
- ◆ 中期経営計画
- ◆ トピックス
- ◆ 参考資料

通期業績予想

2023年11月期は、売上高は335億円^(注)と若干の増収が見込まれるものの、半導体市場のマイナス成長の影響を受けて営業利益は0.8億円減の58.5億円と予想しております。

(注) 2022年11月期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しております。

	2022/11 実績	2023/11 予想	(百万円) 対前年実績	
			増減額	増減率
売上高 ^(新会計基準)	32,236	33,500	+1,263	+3.9%
営業利益	5,934	5,850	△84	△1.4%
経常利益	6,365	6,050	△315	△5.0%
純利益*	4,725	4,100	△625	△13.2%
国内ナフサ (¥/KL)	77,025	72,000	—	—
為替 (¥/\$)	129	133	—	—

* 親会社株主に帰属する当期純利益

2023年11月期 予想

売上高 **107** 億円 $\triangle 2.4\%$ (対2022年)

● 外部環境

・世界が同時に経済活動を再開する中、物流の混乱や、原油高によるコスト増などのマイナス要素が目立つ状況。

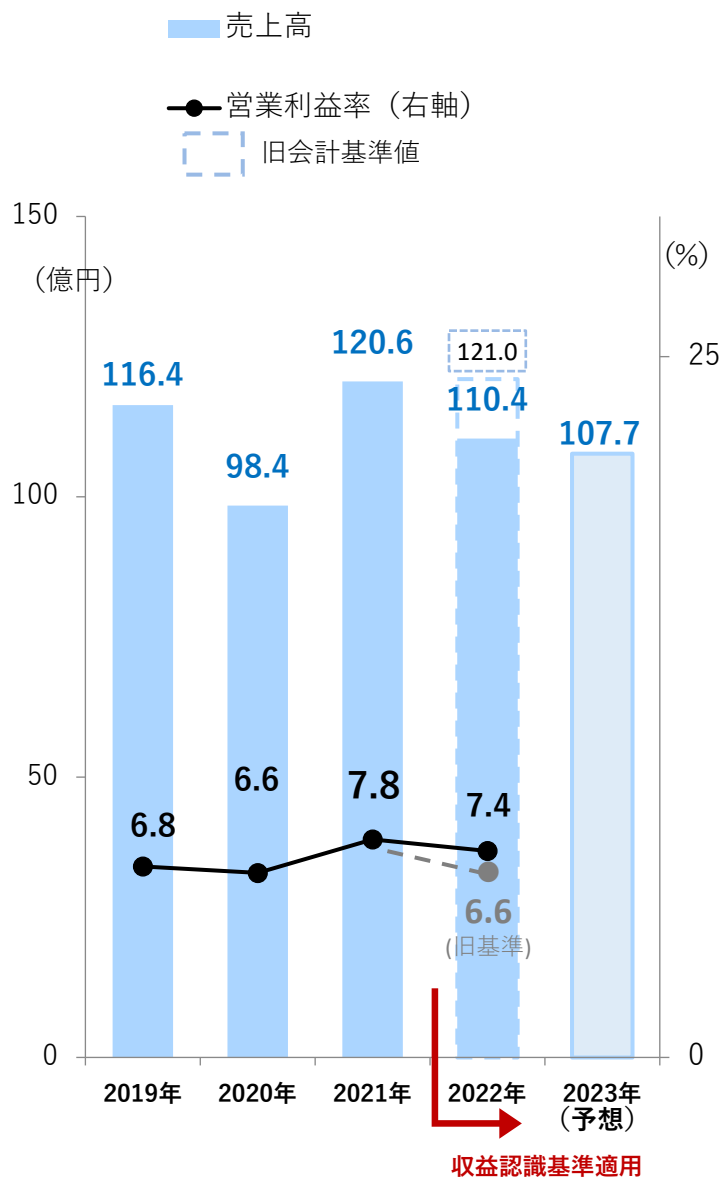
● 当社の状況

- ・原燃料の高騰に伴い、塗料・インキ・粘着剤の各用途向けの製品の利益率が低下の状況。
- ・急激な原油高で増加した原料コストの、製品価格への転嫁を進める。
- ・天然由来の製品の拡充に努める。

● 市場におけるリスク

- ・原油価格の高止まり。
- ・天然由来原料相場の高騰。
- ・コロナ禍による経済動向。

推移グラフ



2023年11月期 予想

売上高 **163** 億円 +7.2% (対2022年)

● 外部環境

- ・ 2023年の半導体市場は前年比-4%程度の2019年以来4年ぶりにマイナス成長が予測されている状況。
- ・ 最先端のEUV露光は台湾・韓国を中心に実用化が進展。
- ・ 世界的なインフレの進行や、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化等の影響を受け個人向け電子機器の需要が低迷。

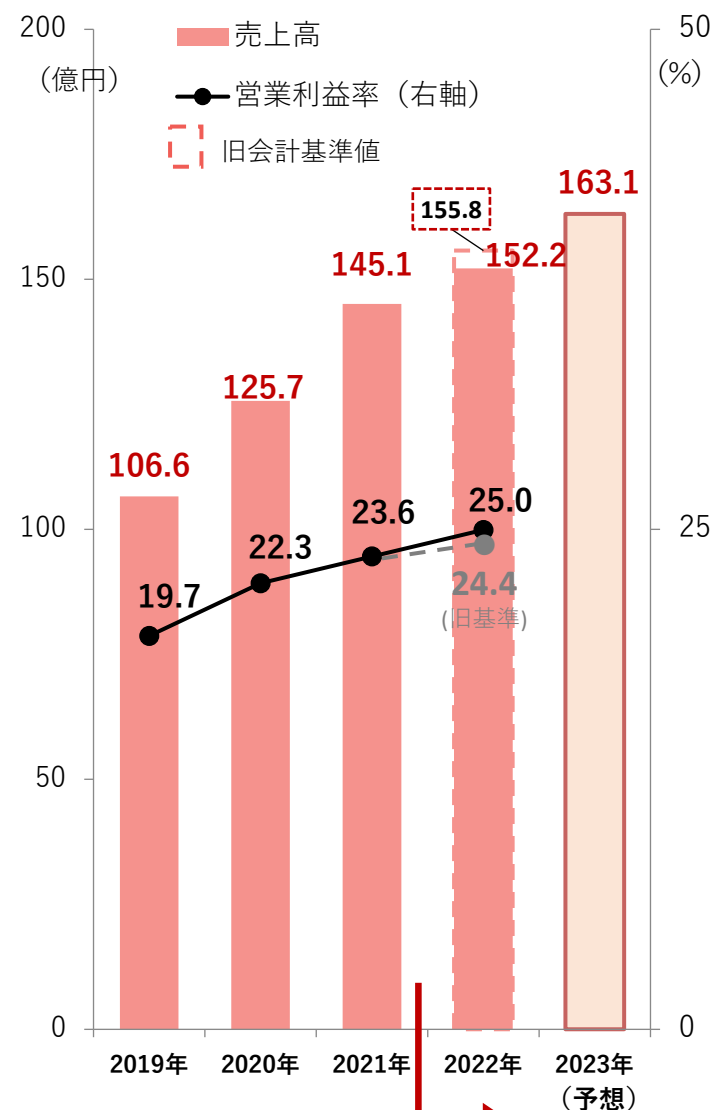
● 当社の状況

- ・ 半導体市場全般は厳しい状況の中、EUV用途の材料は堅調。さらなる採用増を目指す。
- ・ FPD関連材料も引き続き顧客要望の実現と拡販に努める。

● 市場におけるリスク

- ・ 米中経済対立の激化。

推移グラフ



2023年11月期 予想

売上高 **64**億円 +7.4% (対2022年)

● 外部環境

- ・ 中国の化粧品市場はコロナ禍でも拡大している。
- ・ 化粧品の国内市場も徐々に回復。

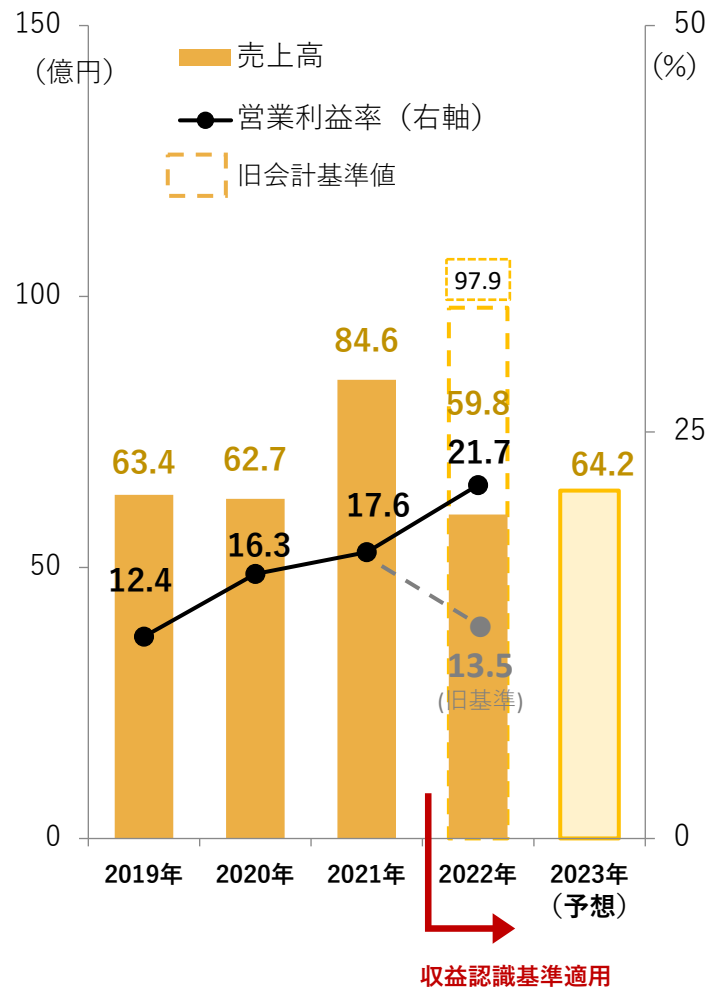
● 当社の状況

- ・ スキンケア用シートマスクに好適な機能（保湿性など）を有する化粧品原料を中国などへ拡販。
- ・ 超親水性材料、半導体用添加剤の安定供給と用途開拓に注力。
- ・ 海外市場への販売を進める。
- ・ 特殊溶剤の用途展開を進める。

● 市場におけるリスク

- ・ 新型コロナウイルスの変異株拡大による、化粧品需要の回復停滞。

推移グラフ



- ◆ 当社のご紹介
- ◆ 2022年11月期 決算概要
- ◆ 2023年11月期 業績予想
- ◆ **中期経営計画**
- ◆ トピックス
- ◆ 参考資料

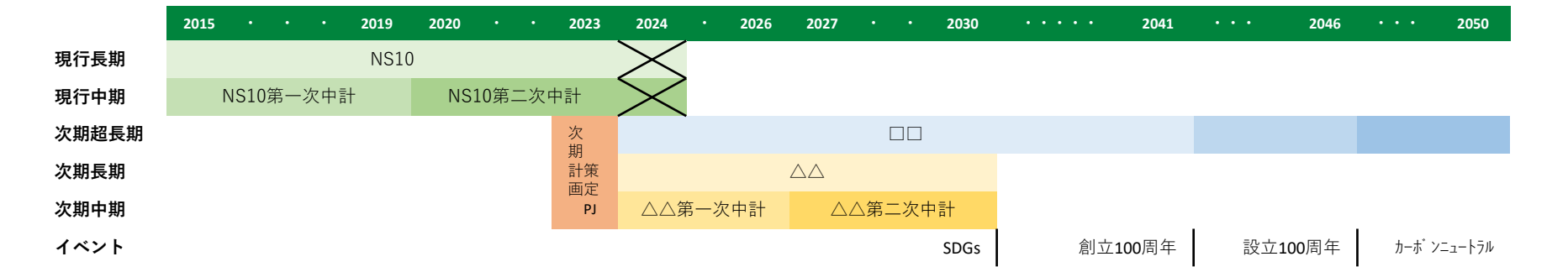
2015年11月期より運用してまいりました中期経営計画の目標値は既に2度の上方修正を行っていることと、2022年11月期から適用されました「収益認識に関する会計基準」に伴いKPIの数値が大きく変化する状況となっています。

この状況をふまえ、現在の第2次中期経営計画の終了年を1年繰り上げ、2024年11月期より新たな中長期経営計画を運用する計画を進めるべく、「次期中長期経営計画策定プロジェクト」を2022年12月1日付けで発足させました。

現経営計画（Next Stage 10）の目標値 変遷履歴

	当初目標 (2015年1月公表)	2017年度 実績	達成率	修正目標 (2018年1月公表)	2018年度 実績	達成率	第二次中計目標 (2019年11月公表)	2021年度 実績	達成率
売上高 (旧会計基準)	300億円以上	265億円	88%	350億円以上	292億円	83%	370億円以上	350億円	95%
営業利益	30億円以上	32億円	達成	35億円以上	36億円	達成	50億円以上	58億円	達成
営業利益率	10%以上	12.1%	達成	10%以上	12.5%	達成	13.5%以上	16.7%	達成
ROE	—			—			10%以上	13.6%	達成

次期中長期経営計画について スケジュール



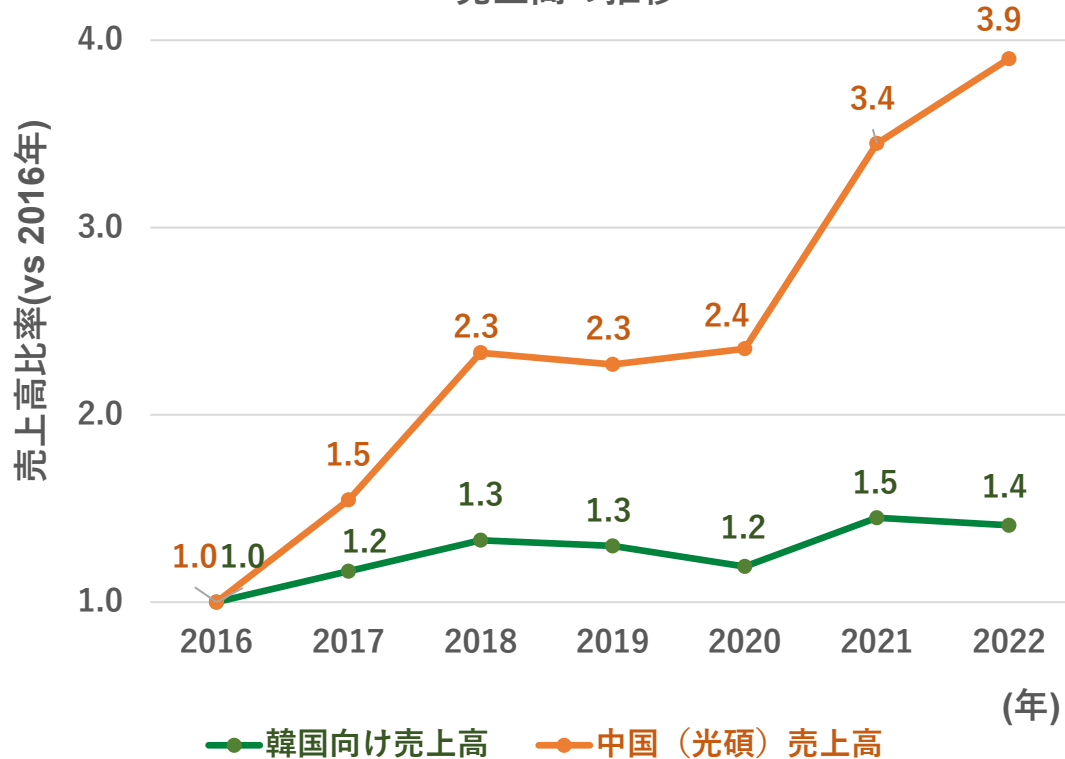


- ◆ 当社のご紹介
- ◆ 2022年11月期 決算概要
- ◆ 2023年11月期 業績予想
- ◆ 中期経営計画
- ◆ **トピックス**
- ◆ 参考資料

2014年に中国上海市に光碩（上海）化工貿易有限公司（現・連結子会社）を設立し、中国への販売強化をすすめてまいりました。

韓国向けにも徐々に製品売上が増加していることとともない、さらなる当社事業の拡大・強化を図るため、大韓民国における市場調査及び情報収集の拠点として、韓国連絡事務所を開設いたしました。

売上高の推移



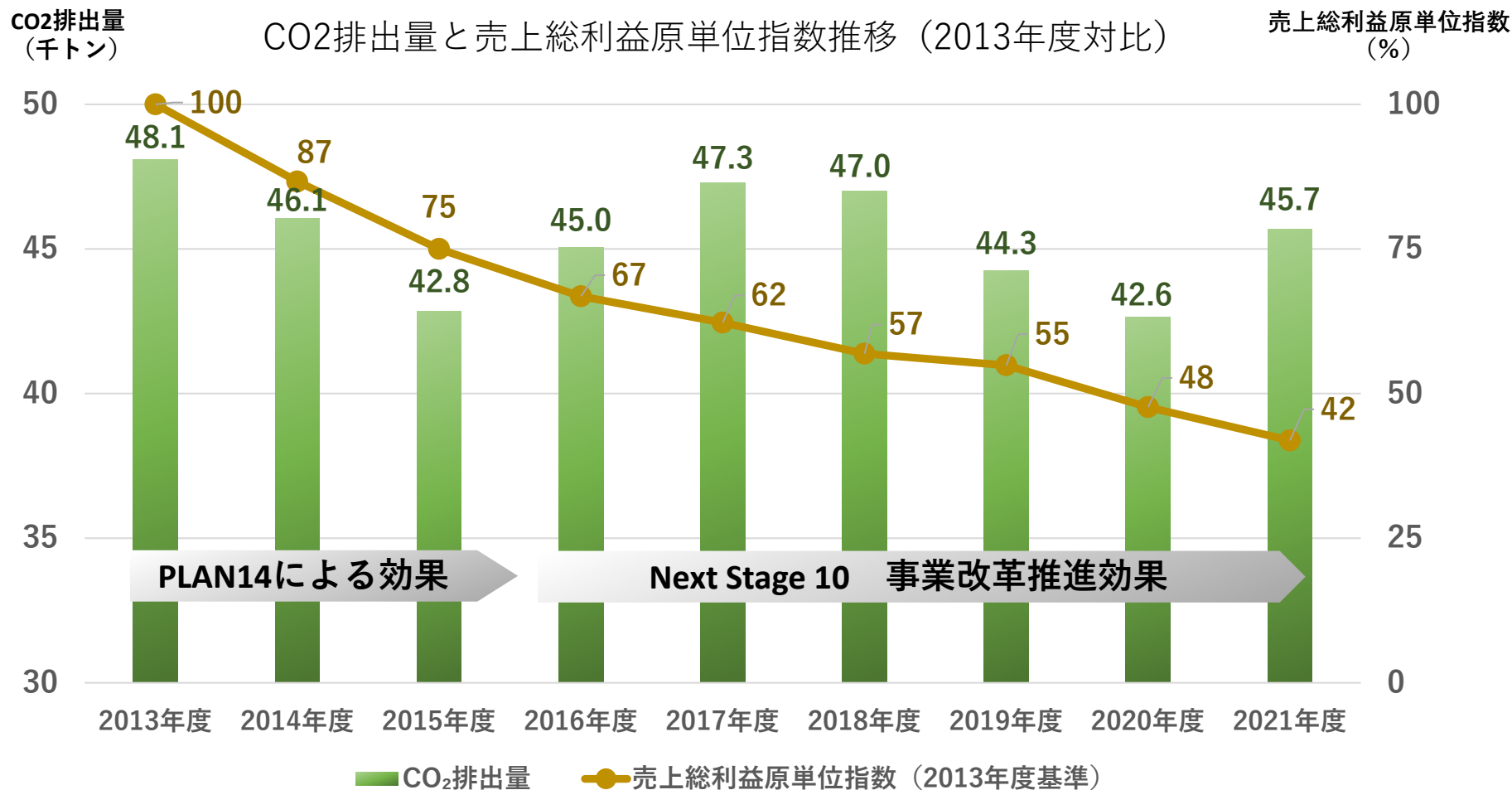
大阪有機化学工業株式会社 韓国連絡事務所
OSAKA ORGANIC CHEMICAL INDUSTRY LTD.
Korea Office
大韓民国ソウル特別市衿川区デジタル路 9 ギル
99,1401-10 号(加山洞、スターバレー)

業務開始日 2022 年 10 月 3 日

温室効果ガス（GHG）の削減状況

2014年までに大阪工場を廃止を推進した「PLAN14」、および2015年からスタートした中期経営計画「Next Stage10」の活動により、不採算事業の見直しなどの効果で売上高および利益が増加する状況で、CO₂の排出増加を抑えることができました。

今後とも環境社会へのニーズに対応した製品開発により事業成長して参ります。



集計期間 ： 該当年4月からその翌年3月まで

- ◆ 当社のご紹介
- ◆ 2022年11月期 決算概要
- ◆ 2023年11月期 業績予想
- ◆ 中期経営計画
- ◆ トピックス
- ◆ **参考資料**

営業外損益

営業外収益では、海外関連会社からの受取配当金、円安移行による為替差損益が増加しました。

営業外費用では今期は自己株式取得費用が発生しました。

特別損益

特別利益では、遊休資産の売却による固定資産売却益が増加したものの、政策保有株式の投資有価証券売却益が減少しました。

特別損失は、大きな発生、増減はありません。

青字：利益増加要因

赤字：利益減少要因

	2021/11	2022/11	増減額	
営業外収益	408	452	+ 44	→
営業外費用	7	21	+14	→
特別利益	933	462	△470	→
特別損失	9	18	+ 8	→

受取配当金	+ 63百万円
為替差益	+ 39百万円
保険解約返戻金	+ 34百万円
補助金収入	△115百万円
他	

自己株式取得費用	+ 13百万円
他	

固定資産売却益	+ 308百万円
投資有価証券売却益	△778百万円
他	

固定資産除却損	+ 8百万円
他	

	(百万円)			
	2021/11	2022/11	増減額	
資産				
流動資産	28,088	28,082	△6	→ 現金及び預金 △1,829百万円 受取手形、売掛金及び契約資産 +769百万円 (収益認識基準適用による契約資産増加) 原材料及び貯蔵品 +730百万円 (原燃料価格高騰により金額増加) 他
有形固定資産	15,609	18,470	+2,861	→ 建設仮勘定 +3,978百万円 (半導体材料製造設備増設による増加) 他
無形固定資産	141	116	△24	
投資その他の資産	6,028	6,166	+138	→ 退職給付に係る資産 +206百万円 他
負債				
流動負債	8,687	9,169	+481	→ 1年内返済予定の長期借入金 +1,035百万円 他
固定負債	2,055	2,272	+217	
純資産	39,125	41,394	+2,269	→ 利益剰余金 +3,857百万円 自己株式 △1,690百万円 他
総資産	49,868	52,836	+2,968	

今後の財務指標

	2022/11時点	今後の目安
自己資本比率	77.3%	—
手元流動性比率	2.6ヵ月	3.0～4.0ヵ月
DEレシオ	0.09	0.2以下
ネットDEレシオ	-0.11	0以下（実質無借金）
インタレスト・カバレッジ・レシオ	875.2	200～400倍

(百万円)

[主な内訳]

税金等調整前当期純利益 6,809百万円
 減価償却費 2,284百万円
 固定資産売却損益(△は益) △426百万円
 売上債権及び契約資産の増減額(△は増加)

402百万円

棚卸資産の増減額(△は増加) △1,507百万円

仕入債務の増減額(△は減少) 293百万円

法人税等の支払額(△は支払) △2,647百万円

他

有形固定資産の取得による支出 △5,500百万円
 (半導体材料製造設備等) 他

長期借入による収入 2,300百万円

長期借入金の返済による支出 △1,022百万円

自己株式の取得による支出 △1,713百万円

配当金の支払額 △1,142百万円

他

	2021/11	2022/11
営業活動によるCF	5,837	4,727
投資活動によるCF	△1,043	△4,852
財務活動によるCF	△1,830	△1,564
現金及び現金同等物に係る 換算差額	118	160
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	3,081	△1,529
現金及び現金同等物の 期末残高	9,593	8,064

< 通期比較 >

(単位：億円)

		2021年	* 2022年
		通期	通期
売上高	化成品	120.5	120.9
	電子材料	145.0	155.7
	機能化学品	84.6	97.9
営業利益	化成品	9.3	8.1
	電子材料	34.3	37.9
	機能化学品	14.9	12.9

< 半期比較 >

(単位：億円)

		2021年		* 2022年	
		上期	下期	上期	下期
売上高	化成品	59.4	61.1	61.9	59.0
	電子材料	72.6	72.4	78.8	76.9
	機能化学品	37.2	47.3	48.4	49.4
営業利益	化成品	5.0	4.3	5.5	2.5
	電子材料	16.6	17.6	20.9	17.0
	機能化学品	6.7	8.1	6.9	6.0

< 四半期比較 >

(単位：億円)

		2021年				* 2022年			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	化成品	28.5	30.8	29.9	31.1	30.9	30.9	31.2	27.7
	電子材料	35.4	37.1	34.6	37.7	42.2	36.5	37.3	39.5
	機能化学品	16.8	20.3	23.6	23.7	23.2	25.2	24.9	24.5
営業利益	化成品	2.4	2.6	2.3	1.9	2.5	2.9	0.8	1.7
	電子材料	9.7	6.9	7.3	10.2	11.7	9.1	7.3	9.7
	機能化学品	3.2	3.5	4.0	4.0	3.2	3.6	3.3	2.7

<見通しに関する注意事項>

- 本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。
- 従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があります、いかなる確約や保証を行うものではありません。

【お問い合わせ】
管理本部 IR・広報担当
TEL 06-6264-5071（代表）



“特殊アクリル酸エステル”のリーディングカンパニー

大阪有機化学工業株式会社

東証プライム：4187